

大原戸寺から山幸橋

京都府山岳連盟トレイル委員会



金毘羅山、翠黛山



水井山、横高山



標識北山 24 味工房志野



標識北山 27



西之村霊神之碑

トレイルコースは、戸寺バス停前の郵便ポストと並ぶ標識北山 24 から坂を降る。戸寺バス停前の「味工房志野」では弁当も調達でき、トイレも借用出来るので覚えておこう。

標識北山 25 を右へ高野川の橋を渡り、標識北山 26-1 を右折する。道は標識北山 26-2 で分岐する。

左の舗装道路に行く事も出来るが、車の通行が多く危険なので、川沿いの道を直進して、宮川橋の十字路の標識北山 27 に出る。

右へ橋を渡って進めば寂光院方面である。

河川改修で美しく整備された宮川橋手前の標識北山 27 を直進し江文神社へ向かう。北方に金毘羅山、翠黛山、東南に通過してきた水井山、横高山、比叡山等が望める。

途中、空き地入口に西之村霊神之碑がたっている。案内板には「おつうの悲しい伝説」とある。

『昔、大原に「おつう」という美しい娘がいた。若狭の殿様に見染められ国へ連れて行かれたが、しばらくで殿様に飽かれて村へ返された。「おつう」は懊悩の日を過ごすうち、再び殿様が大原を通るということを聞き、そのあとを追いかけたが家来に妨げられ会うことが出来なかった。煩惱の身はどうとう蛇身と化して追い迫ったが、剛勇の家来に切り伏せられてしまった。その首を埋めたところが「おつうの森」で、尻尾は花尻の森に埋めたという。今でも毎朝、大原の里にかかる朝靄が大蛇の姿に棚引きこれを「小通霞」という。憐れで悲しい伝承である。』

トレイルコースは真っすぐで、幅広の江文神社の馬場と並行に行く。春には桜並木が美しい。馬場端のお堂の向かいに小松美術館があったが、現在は残念ながら休館中である。

小松均（1902 年～1989 年）画伯。大原の里をこよなく愛した日本画家で「孤高の画仙人」とも呼ばれている。文化功労者にも選ばれ晩年になってから水墨画に重点を置き、長年住んだ大原の里の風景を、愛着を持って描き続けた。再度の開館が待たれるところである。

トレイルコースは、大原～静市を結ぶバイパス道路を横切り、標識北山 28 から江文神社の参道をたどる。途中、土木資材置き場手前の標識北山 29 を左折するが、直進すると江文神社で公衆トイレがある。



標識北山 28 江文神社参道



江文神社



江文峠古道入口



江文峠古道



江文峠金毘羅山登山口



標識北山 31 江文峠

金毘羅山は江文神社から登ることが多いが、往古から山頂近くに讃岐の金毘羅宮と崇徳上皇が祀られ、信仰の山として登拝者も多かったが、今はロッククライミングのゲレンデとして関西の岳人に親しまれている。金毘羅山にはトレイルコースの江文峠からも良い参道が付いている。

江文神社の駐車場は参拝者のみが駐車可能である。クライミングやハイキングの場合は、神社手前の土木資材置き場が有料駐車場で、無断駐車は厳禁である。

江文神社は大原郷の産土神として古くから崇敬され、祭神は倉稻魂命の旧村社である。創建は明らでないが、江文山を神体として創祀されたものであろうといわれている。うっそうたる樹木に覆われた境内は台風の被害で昔ほどではないが、それでも古社らしい森厳さは保たれている。

江文神社といえば「大原のざこ寝」が有名である。節分の夜に神社の拝殿にて行う行事であるが、むかし、大原村蛇井手（現井出町）の大淵という池に大蛇が棲み。ときどき里に出て人を害するので、里人は一ヶ所に隠れ難を避けたという。それがいつしか節分の夜に当社に参籠して通し夜する風習になったというが、井原西鶴の「好色一代男」がこれを探り上げ、その夜の情景を面白おかしく記したため世に喧伝されるようになったのだが、実際はそんな浮わついたものでは無かったらしい。一村の男女が一ヶ所に集まり、灯を消すことから風紀上いかがわしく、明治以前に禁止されてしまったと伝えている。このように大原の里には蛇に関する伝承が多い。

標識北山 29 を左折し小川を渡ると江文峠への道で、この道は平家物語にも語られる。文治二年（1186 年）後白河法皇が大原の寂光院に建礼門院を訪ねるため、京からこの静原を通り、江文峠を越えて御幸された「大原御幸」ゆかりの古道である。由緒ある古道とはいえ、トレイルコース指定以前は江文峠へは沢の中を歩くような悪路であったが、苦心のコース整備のおかげで非常に良いルートになった。

トレイルコースを峠に出れば、標識北山 30 から道路斜め向かいの標識北山 31 に横断する。

50 年程前までは砂礫の切通しであった江文峠も、今は大原から静市へ抜けるバイパス道路が通じ、特に峠の頂上近くでスピードを上げる車が多いので、横断には十分注意願いたい。

標識北山 31 から峠を下ると、直ぐに「瓢箪崩山」への急登の踏跡が左に分岐する。次の林道分岐は、杉林の中を右に降る林道



標識北山 34 静原



標識北山 35-2 静原神社



境内の銀杏の大乳頭



静原神社境内の大杉



静原からの葦裏ヶ岳



薬王坂は標識北山 39-1 左折

がトレイルコースである。標識北山 32 を経てバイパス道路のトンネルを潜り、標識北山 33 でバイパス道路に出ると、箕裏岳を正面にして山あいを開けた静原の里が広がる。

古来、静原は鞍馬から大原、朽木と若狭街道へ抜ける重要な道筋であった。それだけに都の入口としての要害でもあり、北側の小山には大規模な室町時代の砦跡もある。トレイルコースは、バイパス道路から自動販売機のある標識北山 34 で右の道に入る。この辺りでは「花の里、静原」を合言葉に花の栽培が盛んで、田畑地帯が広がる中、農家の方が休耕田を利用しコスモスの栽培を行っており、十月中旬にはコスモスフェアが催される。

コースは川沿いの標識北山 35-1 を右折し静原の集落の中を通る。やがて静原神社標識北山 35-2 で、秋にはいくつもの乳頭根が下る大イチョウの黄葉や、高尾かえでの鮮やかな紅葉が美しい。神社横の公園は恰好の休憩場所で、トイレも新装され美しくなった。本殿前の杉の大木も見ものである。

静原の集落に入るとあちこちの家々の戸口には、白い輪がかかっているのを見かけるが、静原神社の例祭に神に供える「御幸餅」を、頭に乘せて供御した子供を出した家の証だそうで、白い輪はその台ということである。

トレイルコースは、標識北山 36、標識北山 37 及び補助標識に注意し、静原の里を抜けると標識北山 38 から右の谷に入る。この辺り、去年の台風による倒木処理の後が痛々しい。

次いで標識北山 39-1 を左折し、標識北山 39-2 から鞍馬に抜ける薬王坂（奴坂、薬甲坂）に懸かる。取り付きは別荘地の舗装された急坂で、山道とは異なる辛さがある。

数軒のロッジを過ぎると山道となるが、大きな古木の下に南北朝時代の弥陀二尊板碑を見ると、まもなく峠頂上である。

薬王坂は古く平安朝の頃から江文峠とともに開けた峠道である。峠頂上の標識北山 40 から北へ分岐する尾根道は天ヶ岳に到る。

標識北山 41 から南への尾根道は竜王岳への分岐である。北の天ヶ岳から薬王坂を経て竜王岳への稜線には経塚のあるピークが多い。

鞍馬へは静原からの登りと比べて案外楽に下ってしまう。ひっそりとたたずむ山の神の祠を見る。近年に祠の横の大きな岩が崩落しコースは祠の前を通るようになった。



薬王坂弥陀2尊板碑



標識北山 40 薬王坂



標識北山 42 薬王坂登り



鞍馬街道電柱脇 北山 43



鞍馬寺山門



鞍馬駅前の大天狗面

標識北山 42 を見ると鞍馬の里である。鞍馬は進む側溝の水も清麗だ。鞍馬街道の電柱脇にある標識北山 43 で左折し「えいでん鞍馬駅」に向かう。いつの季節でも鞍馬は観光客でにぎやかだ。

鞍馬街道が左折する右手には、鞍馬弘教総本山である鞍馬寺の山門が堂々たる佇まいを見せている。

源義経が牛若丸と称した少年時代に修業したことで有名で、本尊は北の方向を護持する毘沙門天王、千手観世音菩薩、護法魔王尊（650 万年前に來地球の金星人？天狗？）の三身一体で「尊天」様と敬う。

山門から本殿まで標高差二百ほど近くあり徒歩では三十分はかかるが、山門裏から無料（但し寄付金要）のケーブルカーが運行されている。鞍馬寺はれっきとした第 1 種鉄道事業者（車両も線路も運行も同一事業者）である。

鞍馬は六月の収穫の多寡を占う竹伐り会式。境内にある由岐神社の祭礼である十月の鞍馬の火祭りが著名。

「えいでん鞍馬駅」にはトレイル標識は設置されていない。

トレイルコースは鞍馬から二ノ瀬までは、車で混雑する鞍馬街道を避け、「えいでん鞍馬駅」から電車で移動することをお勧めする。

パノラマカーに折よく乗車できれば、ご機嫌になること請け合いで、車窓からは貴船神社の鳥居と赤い欄干の橋も望める。

徒歩による移動を選ぶ方への簡単ガイド。現在、鞍馬から二ノ瀬までのトレイルコースの標識北山 44、北山 45 は未設置である。

コースは鞍馬川に沿って約 2 km、鞍馬街道を南下するが、道路幅が狭く、通行車両も多いので十分に注意する事。

鞍馬街道を約 1.3 km 降ると貴船への分岐で。橋を渡った対岸の貴船口駅は観光客でにぎわっている。これを過ぎ約 250 m で新しくできたバイパス道路「二ノ瀬トンネル」。トンネルは歩行者が通行禁止なので、右の旧街道を進む。ここからは車の通行は殆ど無くなる。分岐から約 500 m で東海自然歩道と共架の標識北山 46、その先の通路を右折し橋を渡れば標識北山 47 である。

電車移動の場合は鞍馬駅から二駅の二ノ瀬駅下車。二ノ瀬駅は、まず観光客は下車しない山裾の寂しい無人駅である。

出町柳駅方面行のホーム端にあるトイレは、最近ウォッシュレット付きのきれいなトイレに建物ごと改修された。

トレイルコースは駅から狭い階段を降り、加茂川の上流になる長



貴船への分岐



二ノ瀬トンネル分岐



夜泣峠への分岐標識 46



標識北山 49 富士・守谷神社



夜泣峠下の崩落地



夜泣峠

代川沿いに上流に向かうと、標識北山 47 が橋の袂にある。標識北山 46 は銀杏の大木の脇の橋を渡った鞍馬街道にあり、電車で移動した場合には目に触れない。標識北山 47 から道なりに山側に右折し、舗装道路を登ると標識北山 48。水路脇を直進して「えいでん」の踏切を渡る道は稱名院への道で、トレイルコースは標識北山 48 を左折し富士・守谷神社のある踏切に向かう。

神社は惟嵩親王祀る森谷神社と、惟嵩親王の母君を祀る富士神社が合祀されている。神社手前を右に入る道が、昔からハイカーに親しまれた「二ノ瀬ゆり」で、滝谷峠を経て奥貴船あるいは、直谷の今西錦司先生レリーフを通り、柳谷から魚谷山へも通じる京都北山クラシックルートであるが、現在、滝谷峠から貴船へ降る滝谷、および北の直谷へ降るルートも相当荒れており、通過困難で初級者は注意。

トレイルコースは夜泣峠まで東海自然歩道と同じルートで、標識北山 49 を直進する。すぐに砂防堰堤の脇を登る階段となる。

ほんの数分であるが疲れた足には応える。堰堤上流の木橋を渡り山道の登りに懸かる。

晩秋から春先までのルートは落ち葉の絨緞が心地よい。ジグザグに付けられた古くからの静かな峠道であったが、前年の台風で夜泣峠直下から峠道が完全に崩落した。古い踏跡を利用し仮設のバイパスルートが整備してあるが、踏跡を外さぬよう注意したい。

三十分ほどで標識北山 50-1 の夜泣峠に着く。峠を少し越した左手山腹からは、十三石山から半石高山、白木谷山方面の北山北西部の山々の眺望が開けている。

峠の東海自然歩道の駒札には、昔、幼少の惟嵩親王が乳母に抱かれて二ノ瀬に越えられるとき、ここで一夜を明かされたが、親王が夜泣きをされたため、峠の地蔵様に願を掛けたら泣き止まれたところから、夜泣峠と言われるようになったとある。

金久昌業氏の「北山の峠」には、乳母が峠の松の樹皮を枕の下に入れたところ泣き止んだとあり、以来、この松の樹皮を煎じて飲めば、夜泣きに卓効があるという説を紹介されている。

京都一周トレイルの旧コースは、標識北山 50-1 の峠から栗夜叉谷に下り、東海自然歩道と共に栗夜叉林道を大岩街道から山幸橋に抜けていたが、雲ヶ畑街道（大岩街道）は狭い街道で車の往来が激しく危険で、京都一周トレイルの新コースは、歩き難い雲ヶ畑街道を避け、夜泣峠から向山を経て山幸橋に出るコースとなっている。

トレイルコースは標識北山 50-1 から南に向かう山道に入る。やや急登の道を標識北山 50-2 の



向山山頂 北山 51-3



関電巡視路鉄橋



関電洛北発電所



市原からの向山



小町寺

分岐を左に取り、ピークを巻くように登り降りすると、標識北山 50-3 で右からの道が合流する。

やがてルートは快適な樹間のプロムナードとなる。途中、標識北山 51-1 で右に分岐するルートもあるが直進する。

北山 51-2 から右上に登るドーム状の台地が、向山頂上標識北山 51-3 で、北山 51-2 を直進すると市原へ下る。

向山頂上は明るい気持ちの良いピークで、南の一角だけが開けており、樹間から京都の町並みが一望できる。天候が良ければ、遠く鷲峰山、生駒の山まで望める。ゆっくりと休息しよう。

向山ピークからの下りは急坂で雨天時、積雪時は注意。標識北山 51-4 過ぎると緩やかな快適な尾根道となる。やがてベンチのある標識北山 52-1 ピークに至ると、整備された北部クリーンセンターの遊歩道に入る。

途中のベンチのある左への分岐標識北山 52-2 は直進する。分岐を左に急坂を降ると北部クリーンセンターに出てしまう。やがて展望の良い標識北山 52-3 から急坂を降るとT字路の標識北山 53-1 に出会う。

T字路の左は北部クリーンセンターに向かうので右の道を取る。すぐ標識北山 53-2 で左下へ分岐する支尾根から、小さなこぶを越えて降ると麓に標識北山 54-1 があり、標識北山 54-2 で発電所の巡視路と合し、標識北山 54-3 を経て関電洛北発電所横の芝生に飛び出す。この辺り台風の影響でまだまだ倒木が多い。

変電所入口橋の脇に標識北山 54-4 を見て、坂を登ると舗装道路が雲ヶ畑街道（大岩街道）である。通路入口にあるのが標識北山 55。雲ヶ畑街道を右に行けば山幸橋、左へ向かいT字道路を横断すると山幸橋バス停である。

バスは朝夕のみ運行の「モクモク号」のみであり、昼間は直近の交通機関まで歩く必要がある。

市バス西賀茂車庫へは雲ヶ畑街道を下り、集落に出て街道に架かる高橋は渡らず、鴨川右岸沿いに終野堰堤を過ぎ、対岸にMK タクシー本社屋（ボウル上賀茂）を見て、次の信号を右折すれば市バス西賀茂車庫前まで約 3km である。

えいでん市原駅へは、標識北山 55 を左折しクリーンセンターへの

市原バイパスの橋を渡る。次の橋の手前の分岐を右折し、川島織物市原工場の横を通り抜けて、約 2km である。

向山山麓の市原の里にも、向山南斜面に『一』というお盆の送り火を燃やす風習があったらしい。しかし古図によると、今の碎石場上のピークではないかという説もあり判然としない。

向山南斜面は市原の補陀洛寺（ほだらくじ）の墓地等に対面することから、お盆の送り火を燃やす風習があったということもうなずける。補陀洛寺は別名「小町寺」とも言う。

市原の里は、平安時代には小野氏の領地で小野小町とは縁が深く、寄る辺もなく容色衰えた晩年の小町が、ここ市原の里で亡くなったという伝承がある。

補陀洛寺には小野小町老衰像、小町姿見の井戸、小町灯籠、小町供養塔、深草少将供養塔。葬るものもなく、野ざらしの小町の髑髏から生えている孔目の薄（あなめのススキ）図などがあり、謡曲「通小町」（かよいこまち）の舞台でもある。ちなみにバスの停留所名も「小町寺」である。

「所要時間参考」

戸寺バス停前北山 24 (20 分← →25 分) 江文神社参道入口北山 28 (25 分← →35 分) 江文峠北山 31 (30 分← →25 分) 静原集落分岐北山 35-1 (15 分← →20 分) 薬王坂登口北山 39-1 (20 分← →30 分) 薬王坂北山 40 (30 分← →25 分) 叡電鞍馬駅

《戸寺バス停前北山 24 (2 時間 20 分← →2 時間 40 分) 叡電鞍馬駅 (6.1 km)》

《叡電鞍馬駅～叡電二ノ瀬駅 (徒歩 2.2 km) 40 分》

叡電二ノ瀬駅 (10 分← →10 分) 富士神社北山 49 (15 分← →20 分) 夜泣峠北山 50 (10 分← →15 分) 向山頂上北山 51-3 (20 分← →15 分) クリーンセンタ分岐北山 52-2 (55 分← →45 分) 山幸橋 (発電所入口) 北山 55 《叡電二ノ瀬駅 (1 時間 50 分← →1 時間 45 分) 山幸橋 (発電所入口) 北山 55 (3.9 km)》

山幸橋～エイデン市原駅→2.1 km (35 分)

山幸橋～市バス西賀茂車庫→3 km (50 分)

※ 夜泣峠～（栗夜叉谷・雲ヶ畑街道大岩経由）～山幸橋の旧コースは廃止し変更しています。

※ もくもく号 (9 名乗りのジャンボタクシー)。

問い合わせはヤサカ自動車上堀川営業センター 075-491-0251

大原戸寺～山幸橋間のトレイルコース記載の地図は「京都一周トレイル 北山東部・西部」です。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは

京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください